

加西市出身で元ハンセン病患者の谷川秋夫さん（94歳）が、1月26日に亡くなりました。谷川さんは12歳（昭和11年）でハンセン病を発症し、14歳（昭和13年）の時にハンセン病の宣告を受けました。同年7月に岡山県瀬戸内市の国立療養所長島愛生園に入所。その後、何度か加西市に里帰りされ、施設で暮らしながら故郷を思い続けられました。

ハンセン病については、患者の強制隔離を定めた「らい予防法」が平成8年に廃止されましたが、現在においても差別や偏見が根強く残っています。

広報かさい別冊では、ハンセン病について考えていきます。

ハンセン病 について 正しく知ろう



加西市では、ハンセン病を理解し、差別・偏見の解消や同じ過ちを二度と繰り返さないという思いを託し、平成11年9月にハンセン病回復者の谷川秋夫さんの短歌を刻んだ歌碑を丸山総合公園に建立しました。短歌は、宮内庁の平成5年歌会始で入選した作品です。写真は、平成26年4月に里帰りされた谷川さん（中央）と関係者。